

平成 28 年 6 月 1 日

各 位

会社名 株式会社ウェッジホールディングス
代表者名 代表取締役社長兼 CEO 此下 竜矢
(コード 2388 東証 J A S D A Q 市場)
問合せ先 開示担当 小竹 康博
(TEL 03 - 6225 - 2207)

**GL、アジア市場に積極進出
今年的大幅成長を確信**
～HoonInside 紙 2016 年 5 月 19 日掲載記事より～

当社の重要な子会社であります SET(タイ証券取引所)上場の Digital Finance 会社 Group Lease Public Company Limited(以下、「GL 社」といいます。)は、5 月 17 日に新株予約権及び転換社債を発行することを発表いたしました。これにつき、**HoonInside** 紙の記事を翻訳いたしましたので、下記にその和訳をご紹介します。

(以下、**HoonInside** 紙の和訳)



アセアン諸国でデジタルファンナンス事業を推し進めるグループ・リース株式会社(GL)は、2016 年 5 月 17 日の役員会で、新株予約権証券(ワラント GL W-4)を 1 億 7000 万ユニット発行することを議決した。株主に対する比率は、9 株:1 ワラント。権利行使は、1 ワラント:1 普通株、行使価格は 40 バーツで、ワラント発行後 2 年以内の条件で行う。その他日本の共同出資者である J トラスト・アジアに対し、最大 1 億 3000 万 USドルの転換社債を発行。こちらは転換社債1:1普通株、転換価格は 40 バーツ、期間は 5 年である。もし株主および J トラストグループが全ての権利を行使すると、GL の循環資金は 100 億バーツ以上に増加する。資金は、アジア市場への積極的な進出に使われる。

「我々の事業はどんどん拡大しているため、資本が必要です。GL が展開しているどこの市場でも、急速な成長率を見

せています。これには、アセアン諸国で我々が進出する準備を進めている国、M&A を考えている案件はまだ含まれていません。」同社の会長兼最高経営責任者である此下益司氏が説明を続ける。

会社が株主に無料配布することを決定した、1 億 7000 万ユニットの新株予約権証券について、もし株主が、2 年以内に行使価格 40 バーツで全ての権利を行使したとすると、会社は新規の資金 59 億 5000 万バーツを得ることができる。一方 US ドル建て、利率 5%、期間 5 年の転換社債発行については、直ちに資金源となる。今回の役員会で議決された当該 2 案件は、2016 年定例株主総会に提議され、承認を得る。

その他役員会は、会社の登録資本の増加を承認した。ワラントと転換社債の権利行使に対応するためである。増資の普通株式は、額面 0.50 バーツ/株で、最大 2 億 8505 万株。そのうち最大 1 億 7000 万株(額面額 0.50 バーツ)をワラント権利行使対応分に、最大 1 億 1505 万株(額面額 0.50 バーツ)を転換社債権利行使対応分に充てる。当該登録資本の増加は、臨時株主総会で承認を得る。

此下益司氏は、カンボジア市場が依然ファンダメンタル要因を持ち、まだまだ成長の余地があると自信を見せる。昨年末におけるカンボジアの貸付ポートフォリオは、4400 万 US ドルだった。今年末には 2 倍の 1 億 US ドルに拡大する見込み。さらに 2017 年には倍増し、2 億 US ドルに急成長すると見られる。その意味するところは、カンボジア事業の成長に対応するためだけでも、今後 2 年間に 1 億 US ドル以上の投資が必要だということ。GL はカンボジアでの貸付けにおいて、US ドルを主軸としている。元々オートバイの割賦販売から始まり、農耕機械、ソーラーパネル、電気製品へと事業が拡大。さらに昨年はカンボジアで中小企業(SME)向け貸付へと拡大した。すなわち、GL が顧客に対して割賦販売サービスを行う対象となる各種商品を調達・販売する企業である。

GL がワラントの権利行使によりバーツ立てで受け取る新しい資金であるが、ラオスでの事業拡大と、タナバンの資産の質改善および事業拡大に費やされる。事業拡大の具体策として、中古車における新規顧客への貸付、資本を急用したい顧客への動産担保貸付がある。その他の用途として、アセアン諸国での新しい市場進出や、M&A に使う運転資金に充てられる。

GL の執行役員会議長である此下竜矢氏は、GL が 5 月 12 日に、MSCI (Morgan Stanley Capital International)の Indexes (Global Stock Index)に選出されたことを明らかにした。当該インデックスは、MSCI が開発した、国際的な投資のベンチマークとして海外で最も有名な株式指数である。複数の大型ファンドが、当該インデックスを投資判断の基準として

利用している。

「GL が、MSCI の有名な投資インデックスに算定される銘柄として選定されたことを大変嬉しく、誇らしく思っています。我々の事業基盤が堅強であることを反映しており、それは GL 株の市場時価総額がこれまで増加を続けていることから見て取れます。今回この様な投資インデックスに選定されましたことから、タイ証券取引市場に投資をする海外ファンドの注目を受け、将来において時価総額が増加する可能性が拡大し、GL にとって好影響をもたらすと考えております。」と同氏は語る。

同氏は続けて、GL はビジネスモデルを、FinTech (Financial Technology) システムを使ったデジタルファイナンスに切り替えた、と述べた。それは IT システムを使って業務を効率的に運ぶシステムのことで、例えば各国全土に拡散する顧客に到達し、各種コストを抑える事も可能である。さらにタイをはじめとするカンボジア、ラオス、インドネシア、将来的には他国を含むアセアン諸国に事業を拡大するにあたり、ファイナンス他社にはない相違点を構築している。

さらに積極的な営業方針に加え、効率的な NPL の管理が行われており、これまでの GL 業績および利益が飛躍的な成長を見せた要因となっている。GL は 4 年前からアセアン諸国への事業拡大を行って成功を収め、昨年末にはタイ証券取引所の投資インデックスである SET100 に選出されている。市場時価総額は、12 億 US ドルまたは 425 億 4900 万バーツに増加した。

GL の成功は、2014 年第 3 四半期から 2016 年第 1 四半期まで、6 四半期連続で過去最高益(純利益)を更新に導いている。2016 年業績の傾向であるが、引き続き利益が成長する見込み。タイ、カンボジア、ラオスの貸付ポートフォリオが拡大するほか、人口 2 億 5000 万人を有し、カンボジアの 10 倍の規模を有するインドネシア市場への進出は、現在事業許可が下りるのを待っている所である。

昨年末における GL のタイと海外の貸付ポートフォリオは、総額 91 億 4700 万バーツで、そのうちタイが 40%、カンボジアが 25%、シンガポールのホールディング会社が 30%、残りがラオスだった。今年の目標は、ポートフォリオの成長率が前年比 30-40%増。特にカンボジアのポートフォリオは倍増し、ラオスは 3-5 倍に拡大する見通し。オートバイ、クボタのトラクター、ソーラーパネルの貸付需要が大幅に伸びていることが背景。

「私は、今年の業績が飛躍的に成長することを確信しています。貸付額が急速に拡大していますが、貸付けの質を管

理することを怠りません。今年第 1 四半期末におけるカンボジアの NPL 率は 2%に達していません。タイの NPL 率は 6.5%ですが、年末には 5%に下がる見通しです。」と、同氏は語った。

以 上